

とび 北の らびら

vol.116
平成30年11月



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION



特集

「表現することは
生きること」

ボーダーレス社会をつくるアート

この人に注目

2018年度 HAFアンサンブル

アートのチカラを考える

柴幸男アート体感教室

街歩きアート

苫小牧市美術博物館

[苫小牧市]

土田 英生の

演劇的恋愛相談

表紙作家の紹介

ミクニ キョウコ

「表現する」とは 「生きる」とは ボーダーレス社会をつくるアート



1



2

障がいのある人たちの、純粋な創作衝動から生まれる作品。あるがままの表現としてその価値が評価され、「アール・ブリュット」「アウトサイダー・アート」*として近年、注目を集めるようになりました。北海道でも、障がいのある人たちの創作活動を社会に発信する動きが確実に広がっています。

*アール・ブリュット、アウトサイダー・アート
伝統や流行、教育などの既存の価値観にとらわれない、純粋な創作衝動から生まれた芸術作品を指す

常設美術館が 創造と交流の拠点

旭川市の隣町、面積の65%が森林という自然豊かな当麻町にある「かたるべの森美術館」。北海道初の障がい者の作品を常設展示する美術館として、2010年にオープンしました。閉校した小学校の校舎を利用しており、3つの作品展示室と創作のためのアトリエ、作品6万点を保管している收藏室

などがあります。

美術館を運営している社会福祉法人当麻かたるべの森は、「ハンディを持つ人の日中の活動の場としての作業所を拠点に、芸術活動の場を創る」という構想のもと、1996年から小規模作業所として活動を開始しました。現在は22haの森林に囲まれた木工・陶芸・織物の工房と、町の中心部でパン工房などを運営。また、町の指定管理者として、木育と障がい者就



3



5



4

- 1 吉田幸敏 題名なし かたるべの森美術館
- 2 五十嵐由香《かめ》 とともに福祉会
- 3 本松和樹 題名なし かたるべの森美術館
- 4 継岩尚弥《くだものえかきました》 とともに福祉会
- 5 塚田祐太 題名なし かたるべの森美術館

労の場である「くるみなの木遊館」なども運営しています。

絵画をはじめとする自由な創作活動は、開設時から週1回、継続的に実施。2002年からは専門の講師が加わり、多様な作品が生み出されるようになりました。「私はなるべく何もしないよう心がけています。彼らから何が出てくるかを見極め、欲求が果たせるようサポートするのが役割です。例えば、変化したがっている瞬間を見逃さずに画材を変えてあげるとか」。美術大学を卒業し、自身も作家として活動する講師の菊地雅子さんはそう語ります。

菊地さんは彼らの作品を展示し、アートとして社会に伝えるという重要な役割も担っています。「彼らは自分の作品に価値があるかどうかを考えていません。ただ描きたいものを描く。そんな彼らの作品は、『自分以外のものにならなくていいんだよ』ということを大きなメッセージとして発信しています。今の社会にとって必要なものだと思うので、多くの人に作品を見てもらいたいですね」。

かたるべの森美術館では年3〜

4回の企画展を実施。また、毎月第2土曜日はアトリエを誰でも利用できるよう500円で開放しており、地域の住民と交流する機会をつくっています。

「障がい者の作品」から 「心惹かれる素敵なもの」に

障がい者の作品をアートとして展示するだけではなく、グッズとして販売する動きも広がっています。

札幌で知的障がい者の就労支援を行っている社会福祉法人とともに福祉会（以下、ともに）では、通所者のアート作品をデザインしたカレンダー、Tシャツ、ポーチ、アクセサリなどさまざまなアイテムを制作。施設内にあるギャラリーやオンラインショップのほか、札幌市内の書店や文具店、セレクトショップなどでも販売しています。

「店のお客は障がい者の作品としてではなく、ただ素敵なものとして購入されます。ともにの仲間たちが、作品を通して社会と繋がっているんです」。ともにの代

2018年度 HAFアンサンブル

アーティスト

注目の人

若手アーティストに活躍の場を、地域に豊かな音楽文化を。北海道文化財団では道内で活動する若手アーティストの育成を図るため、2018年度より北のアーティスト育成事業をスタート。選考会を経て選ばれた3組の若手演奏家（HAFアンサンブル）をご紹介します。

◎フルートカルテット



按田佳央理 (フルート)



林ひかる (ヴァイオリン)



今井佑佳 (ヴィオラ)



山田慶一 (チェロ)

◎声楽 & ピアノ



佐々木アンリ (声楽)



石田敏明 (ピアノ)

HAFアンサンブルコンサートのご案内

日時 2019年1月11日 (金) 12:10開演
会場 札幌文化芸術交流センター SCARTSコート
出演 佐々木アンリ (ソプラノ)
石田敏明 (ピアノ)

日時 2019年2月23日 (土) 14:00開演
会場 道庁赤れんが庁舎
出演 南加奈子 (フルート)
野口咲妃 (ピアノ)

日時 2019年3月2日 (土) 14:00開演
会場 道庁赤れんが庁舎
出演 按田佳央理 (フルート)
林ひかる (ヴァイオリン)
今井佑佳 (ヴィオラ)
山田慶一 (チェロ)

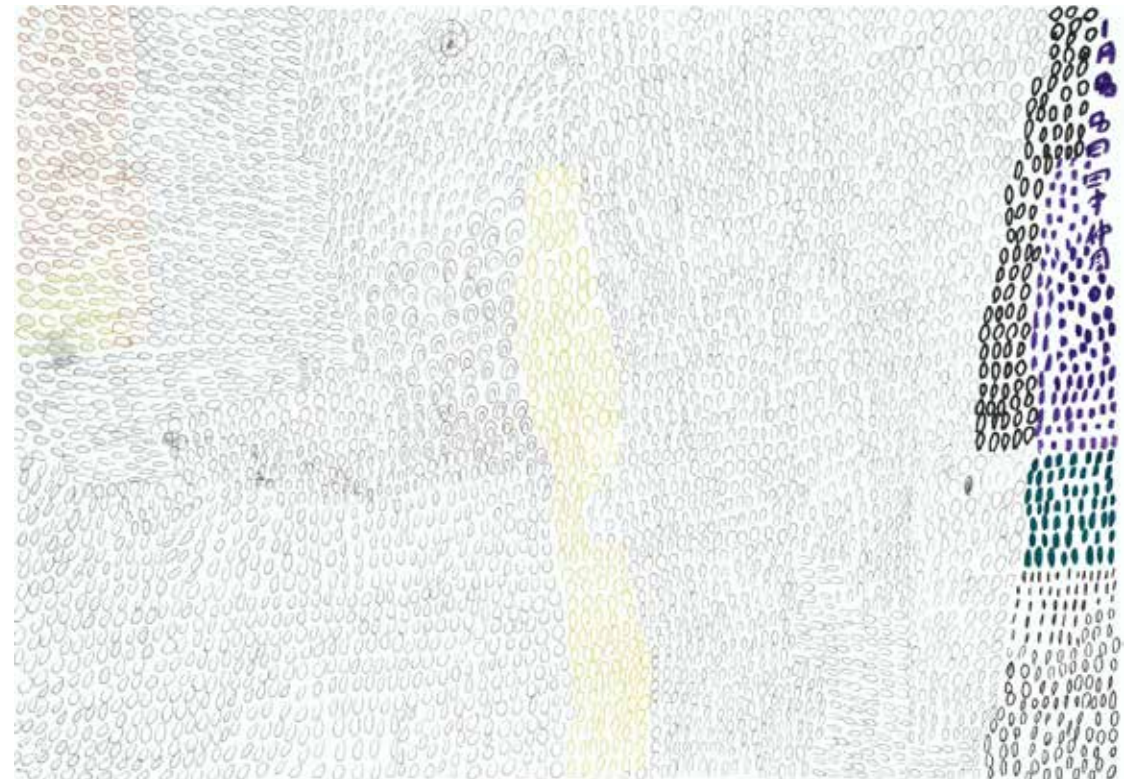
◎フルート & ピアノ



南加奈子 (フルート)



野口咲妃 (ピアノ)



6 田中伸周(たなかのぶひろ) 題名なし かたるべの森美術館

◎かたるべの森美術館
当麻町伊香牛2区・旧伊香牛小学校
☎ 0166-84-2880
開館時間:10:00~17:00
休館日:月曜、12月29日(土)~4月上旬(未定)
観覧料:300円
※冬期休館中も見学は随時対応。要連絡
※車いすで来場の場合は事前連絡が必要

◎ともにアートギャラリー
札幌市西区発寒14条14丁目2-33
社会福祉法人ともに福祉会
☎ 011-663-0200
開館時間:10:00~16:00、土曜 9:00~12:00
休館日:日曜(祝日は開館)
観覧料:無料
オンラインショップ
<https://tomoniweb.thebase.in>

「北海道のアール・ブリュット展 ところどころの交差点」

会期:2019年2月21日(木)~3月31日(日)
場所:北海道立帯広美術館(帯広市緑ヶ丘2)
問い合わせ/
北海道立帯広美術館 ☎ 0155-22-6963

「北海道アールブリュットネットワーク協議会」が調査・発掘した作家たちの作品を、道内に在住する現代アート作家たちが捉え直し、その独自の視点から、「生の芸術」の新たな可能性を探ります。北海道では初めての公立美術館主催によるアール・ブリュットの展覧会です。

表、池田啓子さんは嬉しそうにそう語ります。障がいのある人たちの創作活動は多くの施設で行われていますが、近年は互いの取り組みを学び合い、複数の施設が連携して展覧会を開くケースが増えています。そのけん引役となっているのが、道内10カ所の施設が参加して2015年に設立された、北海道アールブリュットネットワーク協議会(以下、協議会)です。協議会では道内のアール・ブリュット作家の発掘を行い、作品展やフォーラムなどを開催してきました。

かたるべの森美術館でも今年7

9月、シッポファールレ(釧路市)とむての森(北見市)、剣淵西原学園(剣淵町)の3施設が参加した企画展「シと西」が開催されるなど、その活動は広がっています。「障がいの作品がアートとして注目されるようになってからの歴史はまだ浅く、私たちはどうあるべきかを模索しながら、社会に発信していこうと考えています」と菊地さん。道内の施設がともに手を取りあいながら、障がいのある人たちの純粋な創作衝動から生まれる作品をどう活かしていくか、そのあり方を探っています。

a r t

劇づくりが 成長のきっかけに

窓からオホーツク海と麦畑が見える、網走市立西が丘小学校。全校生徒が約70人というこの小さな学校で、2018年7月、劇作家・演出家の柴幸男さんによる演劇ワークショップが3日間にわたって行われました。この取り組みによって子どもたちがどう変わったか、柴さんと、網走市立西が丘小学校教員の佐野正樹さん、大槻彰子さんに伺いました。



演劇ワークショップ（以下、WS）について、学校としてはどのような期待があったでしょうか。

佐野 当校では一昨年にも柴さんのWSを行い、学芸会用の劇と一緒に創っていただきました。このときは、10人前後という少人数クラスの固定化した人間関係の中で、伝えることや表現することが難しくなっている

状況がありました。WSには、表現するということについて考える機会となることを期待していました。

柴 前回のクラスでは、思っていることをみんなに言ったり、声や身体を使った表現が苦手な子が多かったですね。互いを気にし合っている雰囲気がありました。彼らにやりやすい劇づくりをと考えて、穴埋め式の台本

を用意。みんなで空欄に何を入れるのかを考え、誰がどのセリフを言うかを自分たちで決めるワークをやっていく過程で、子どもたちが積極的になっていました。

佐野 WSの後、子どもたちは大きく変化しました。人からどう見られるかを気にして縮こまっていた子どもたちが、表現することに向き合えるようになったのです。WSでの体験を通して「表現してもいいんだ」と感じ、変化していったように思います。

今年6年生クラスの11人が参加。劇づくりの経験があり、表現することに抵抗のない子どもたちでした。

柴 今回のWSではアシスタントの俳優2名それぞれに、あらかじめ一人芝居を創ってもらい、子どもたちに披露しました。一つはセリフがほとんどない、身体表現が中心となる抽象的なもの。もう一つは、日常的な身体や言葉で創られたものでした。

子どもたちは「面白いけどよ

くわからない部分もある」「みたことがなかったもの」という反応。結束力のある子どもたちだったこともあり、学校という日常では出会わない発想や大人と関わる機会に考え、一人芝居に子どもたちが加わっていく形で作品づくりをしました。作者である俳優に、作品で何を伝えたいのかを聞き、どうアイデアを足したら面白くなるかを考えて話し合っ、「私たちの作品」として上演してもらったんです。

佐野 私は彼らが4年生のときの担任なのですが、休み時間や放課後、子どもたちが「こんなことしたんだよ」と教えにきてくれて、WSでもとても楽しい時間を過ごしていることがわかりました。

大槻 WSでは、目立ちたい子、大人しい子、というようないつもの役割にとらわれない話し合いができていました。また、WSの時間外にも考え続けて、翌日に「先生、やっぱりこうしたほうが良かったんじゃないかと思う」と言ってくる子もいました。自分の立ち位置か

らちよつと引いて、全体のことを考える視点を持つことができたんです。実りある3日間でした。この体験はこれからの生活に生きてくると思います。

柴 劇づくりは、正解が見えない中でみんなで相談しながら実践を繰り返すことで、ゆるやかに合意を形成していきます。コミュニケーション能力が上がる子もいると思いますが、やっぱり苦手だ、という子もいるでしょう。そういう子には、これからの人生に備える機会として、避けては通れない人間関係の摩擦を演劇で体験して、自分の対処方法を見つけてくれたらと願っています。

僕としては、自分の作品の創作もWSも、制作期間と最終的なアウトプットが違うだけで、同じ演劇づくりだと思っています。WSは劇の創り方を教える機会とありますが、劇づくりを通して、何かを創る楽しさと難しさを知ってほしい。みんなで創ると面白いこともできるけど、話し合う必要があったり、伝わらなかつたりもする。その難しさに楽しさがあると知ってもらえると嬉しいですね。



まちを盛り上げる
さまざまなイベント

①7月の「苫小牧アートフェスティバル」は、市内文化施設が連携して開催。美術家のワークショップなどを実施。②8月の「活性の火」は、駅前の活性化を願う市民の手による野外音楽祭。夏の新たな風物詩。③9月の「紙フェスティバル」は紙作品の展示や体験など。製紙業のまちらしいイベント。

- ①苫小牧市教育委員会 ☎0144-32-6752
- ②活性の火 実行委員会 (HP)
https://activefire14.jimdo.com
- ③北海道新聞苫小牧支社営業部内
☎0144-33-5363

第一洋食店

大正8年開店の老舗洋食店。店のロゴは染色家・人間国宝の芹沢銈介、メニューの表紙は川上澄生によるデザインで、一流の芸術家と交流があったことで知られる。店内には國松登など画家の作品が。民芸建築の建物も必見。

☎0144-34-7337
11:00~14:30
(土日祝は12:00~)
17:00~20:30
不定休



「僕だけがない街」
観光ロケ地マップ

地元出身の三部けいの漫画で、苫小牧が舞台。実在する施設や場所が登場し、聖地巡礼に訪れるファンも多い。観光協会ではマップをつくり市役所などで配布。その他の映画やドラマのロケ地も掲載されている。

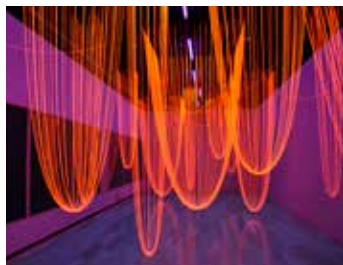
苫小牧市観光振興課 ☎0144-32-6448

国指定史跡 静川遺跡

苫東地域の台地上に発見された、縄文時代中期(約4000年前)の環濠と集落の遺跡。環濠は聖域と考えられており、縄文時代の環濠は大変珍しく貴重。出土物は美術博物館で展示。遺跡は埋め戻されているが、現地も見学できる。
苫小牧市教育委員会 ☎0144-32-6752

企画展「藤沢レオ-Still Living (スティル・リビング)」

2018年10月6日(土)~12月2日(日)まで開催



1



2



3

1. 重さなど、見えないはずのものをあると感じさせる《不在の存在》シリーズ。ピンク色は生命を象徴し、円錐形は種をイメージさせる
2. 青ボールペンの細かい線をたくさん重ねて柱を表現した《黄昏、曙、青い柱》シリーズ
3. 「細いボールペンの線や細い糸など、小さなものをたくさん集めて大きな作品を創り出す、ということも重要なテーマ」と藤沢レオさん

下: 海用と川用のアイヌの丸木舟が勇払川で見つかり、博物館設立のきっかけとなった。昔からこの地が交通の要衝だったことを物語る。こうした博物部門と、美術部門を組み合わせた展示を自館の資料で行えるのが、複合施設の強みだ



上: 「びとこま」の部員は現在7名。子どもの目線で捉えたアート情報を発信している。《黄昏、曙、青い柱》の制作にも部員が参加した。今回の展示に合わせて号外も発行予定



●苫小牧市末広町3丁目9-7
☎0144-35-2550
開館時間: 9:30~17:00 (最終入場16:30)
休館日: 月曜 (祝日の場合は翌日)、12/29~1/3
観覧料: 一般300円、大・高校生200円、
中学生以下無料 ※特別展は別途
www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/

明治末に東洋一とも謳われた製紙工場が操業して以来、「紙のまち」として発展してきた苫小牧市。現在は沿岸部に大規模な工業地帯が広がる北海道有数の工業都市、北日本最大の国際港湾のあるまちとして知られています。2013年には、市民の力によってまちに待望の美術館が開館しました。オープンから5年が経った節目の今年、地元在住のアーティスト・藤沢レオさんの大規模な個展が初めて開かれました。



【苫小牧市】

苫小牧市美術博物館

現代作家を積極的に紹介

美術博物館の設立には、地元出身の画家・遠藤ミマンによる美術館開設構想と、その遺志を引き継いだ市民の「苫小牧市に美術館を実現する会」が大きく関わっています。遠藤が美術館の実現のために寄贈した200点以上のコレクションには、交流のあった國松登や、福井正治、砂田友治、川上澄生など郷土ゆかりの作家が揃います。現在では1000点以上の美術作品を収蔵しており、常設展示室はありませんが、収蔵品を活用した企画展が随時開催されています。

道内外の現代作家を積極的に取り上げるのも、この美術博物館の特徴です。「交通の要衝である苫小牧は、人やモノが行き交うまちです。外へ開かれた場所として、道内ではあまり取り上げられていない現代作家も紹介しています」と、学芸員の福田絵梨子さんは言います。

今秋は苫小牧在住の金属工芸作家・彫刻家の藤沢レオさんの個展を開催。藤沢さんは、アーティストらとNPO法人「樽前arty+ (アーティプラス)」を設立し、アトリエ

のある樽前地区を拠点にイベントやワークショップを行うなど、10年以上まちとアートをつなぐ活動に取り組んできました。美術博物館との協働による活動も積極的に行っており、市内の子どもたちによる広報紙「びとこま」の発行に関わっています。また、市民の設立運動の記念碑として制作した《パサージュ》がロビーに置かれるなど、美術博物館との関わりが大変深い作家です。

今回の展示では、エントランスや中庭など美術博物館の建築空間をフルに使用。藤沢さんが追求しているテーマである「場の彫刻」のシリーズを軸に、柱のモチーフや糸を用い、光の演出や音響と連動させたインスタレーションを展開しています。「作品が既存の空間を変化させ、展示室ごとにそれぞれ別の世界が出現することを体感してください」と福田学芸員。展示会のタイトルでもある「Still Living=それでもなお、生きられる」という藤沢さんのメッセージを、きっと感じられることでしょう。

t o m a k o m a i



表紙作家の紹介



ミクニ キョウコ 画家

Mikuni Kyouko

札幌市生まれ／札幌市在住

- | | |
|---|--|
| <p>[個展]</p> <p>2018年 秋とハモニカ
(GALLERY 門馬 ANNEX / 札幌)</p> <p>2016年 ちいさな空に
(サッポロ珈琲館 時計台ガーデンテラス / 札幌)</p> <p>2014年 いくつもの空
(古民家 gallery 鴨々堂 / 札幌)</p> <p>2011年 「小さな世界」2
(うなかがめーゆの美術館 / 深川)</p> <p>2008年 名前のない場所
(うなかがめーゆの美術館 / 深川)</p> <p>2005年 ミクニキョウコ個展 (大同ギャラリー / 札幌)</p> <p>[企画展・グループ展・公募展]</p> <p>2018年 いきもの (GALLERY 門馬 / 札幌)
西安・北海道中日友好美術展 (西安・咸陽 / 中国)</p> <p>2017年 札幌のアーティスト50人展 (Gallery Retara / 札幌)</p> <p>2015年 2つの (手風琴 / 札幌)
道展90周年記念企画展 ～地域を支える道展、
そして未来へ～ (北海道立近代美術館 / 札幌)
絵画の未知数 (Gallery Retara / 札幌)</p> | <p>2014年 気配 または 記憶 (手風琴 / 札幌)</p> <p>2009年 日々のかげら (いまあじゆ / 札幌)</p> <p>2008年 「4つの世界の物語」 (大同ギャラリー / 札幌)</p> <p>2007年 にかわえ展 (札幌時計台ギャラリー) ['09]</p> <p>2006年 「小さな世界」 (手風琴 / 札幌)</p> <p>2005年 朝地信介・ミクニキョウコ小作品展 (手風琴 / 札幌)
朝地信介ミクニキョウコ絵画展
(さいとうギャラリー / 札幌)</p> <p>1996年 第71回道展 (札幌市民ギャラリー)
[~'08, '10, '11, '14]</p> <p>[受賞]</p> <p>2008年 第83回道展 北海道美術協会賞</p> <p>[所属]</p> <p>北海道美術協会 (道展) 油彩部門会友</p> |
|---|--|

◎北海道文化財団アートスペース企画展 vol.38
朝地信介・ミクニキョウコ展「2つの時間」
会 期：2018年12月7日(金)～2019年3月11日(月) 9:00～17:00
休館日：土・日・祝日、年末年始 (12/29～1/3)
※都合により休館する場合があります。
会 場：北海道文化財団アートスペース
(札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)
入場料：無料



午後の散歩 / ミクニ キョウコ



接続 / 朝地 信介

土田英生の演劇的恋愛相談

②

演劇的恋愛経験豊かな土田英生さんが皆さんの恋愛相談にお答えします。
「相談したい」という方は、メールアドレス love@hat.jp宛に、お名前と電話番号を明記のうえ、相談内容をお送りください。

八 相談

はじめまして、福原冠と申します。
北海道の人間ではないのですが、一つご相談させていただけますでしょうか？

ここ最近のことなのですが、付き合ってから数年の彼女とそう遠くない感じの未来に結婚がしたいなという思いが生まれました。ですが一方ですう遠くない感じの未来に留学をしたいという気持ちも芽生えてしまいました。これ、どうしたら良いのでしょうか？ ものすごく正直に言うとうちちらも叶えたいのです！ 何からどうしていったらよいのか、むずむずする日々です。。。

相談者・福原冠
俳優。範由遊泳(山本卓卓主宰)所属。『プロンドロングへア』名義でDJとしても活動中。2015年、同世代の俳優と演劇ユニット「さんびん」を旗揚げ。2018年10月、さんびん『NEW HERO』突撃！隣のプレシャスご飯、デリシャス!!』(作・演出・出演…さんびん)北海道公演で来道。

回答

福原様。結婚と留学を両方叶えたいとのことですが、とにかく問題を書き出してみましょう。なるべく具体的に。

実際に何がどう不都合なのかを明確にすることが大事なんです。私も悩み症で、様々なことに關して常に漠然と不安を抱えています。実際に動いてみると意外とスムーズに進むことも多いんですよ。つまり人生の問題の大半は杞憂です。具体的に問題が見えれば解決法も考えられます。

なので、まずは結婚をいつするか決めましょう。それからその前に留学するのか、結婚後に留学する方がいいのか検討してみましょう。もしかしたら一緒に留学するという手もあるかも知れませんよ。

回答者・土田英生(劇作家・演出家 / MONO代表)
1989年に「B級ブラックティス」(現MONO)結成、1990年以降全作品の作・演出を担当。1999年『その鉄塔に男たちははいるという』で第6回OMS戯曲賞大賞を受賞。2001年文学座に書きおろした『崩れた石垣、のぼる鮭たち』で第56回芸術祭賞優秀賞を受賞。2003年文化庁の新進芸術家留学制度で1年間ロンドンに留学。テレビドラマ・映画脚本の執筆も多数。

財団事業インフォメーション (2018年12月～2019年3月)

まちの文化創造事業

●第13回 北海道中学生演劇発表大会

日 時：2018年12月1日(土)～2日(日)
 会 場：札幌市教育文化会館(札幌市中央区北1条西13丁目)
 問い合わせ：北海道中学生演劇発表大会実行委員会(札幌市立南が丘中学校)
 ☎011-571-3775

●登録制ダンスカンパニー立ち上げプロデュース公演

日 時：2018年12月14日(金)～16日(日) 14日19:30開演/
 15日、16日14:00開演
 会 場：生活支援型文化施設コンカリーニョ
 (札幌市西区八軒1条西1丁目ザ・タワープレイス1階)
 問い合わせ：生活支援型文化施設コンカリーニョ ☎011-615-4859

●わからない子どもミュージックサークルエンジェルボイス
15周年記念創作ミュージカル公演

日 時：2018年12月16日(日) 14:00開演
 会 場：稚内総合文化センター(稚内市中央3丁目)
 問い合わせ：わからない子どもミュージックサークルエンジェルボイス
 ☎090-7056-2776

●第4回 帯広市民バレエ「コッペリア」

日 時：2018年12月16日(日) 14:30開演
 会 場：帯広市民文化ホール(帯広市西5条南11丁目48番地2)
 問い合わせ：帯広市民文化ホール ☎0155-23-8111

●結成15周年記念 おびひろ市民ミュージカル第16回公演

日 時：2018年12月23日(日) 18:30開演
 24日(月) 15:00開演
 会 場：帯広市民文化ホール(帯広市西5条南11丁目48番地2)
 問い合わせ：おびひろ市民ミュージカル実行委員会
 ☎090-3774-3917

※各公演の入場料は直接お問い合わせください。

アートシアター鑑賞事業

●克蘭フィールドズ「アイリッシュ音楽会」

日 時：2019年2月16日(土) 17:30開演(17:00開場)
 会 場：北斗市総合文化センター(北斗市中野通2丁目13-1)
 問い合わせ：北斗市かなで〜る協会 ☎0138-74-2000

●星屑の会「星屑の町～完結篇」

日 時：2019年3月9日(土) 13:30開演(13:00開場)
 会 場：苫小牧市文化会館(苫小牧市旭町2丁目8-19)
 問い合わせ：「星屑の町完結篇」苫小牧公演実行委員会
 ☎0144-32-6756

日 時：2019年3月10日(日) 15:00開演(14:30開場)
 会 場：たきかわ文化センター(滝川市新町3丁目6番44号)
 問い合わせ：NPO法人空知文化工房 ☎0125-23-1281

日 時：2019年3月11日(月) 19:00開演(18:30開場)
 会 場：幕別町百年記念ホール(幕別町字千住180-1)
 問い合わせ：NPO法人まくべつ町民芸術劇場 ☎0155-56-8600

日 時：2019年3月13日(水) 18:30開演(18:00開場)
 会 場：中標津町総合文化会館(中標津町東2条南3丁目1番地1)
 問い合わせ：(一財)中標津町文化スポーツ振興財団 ☎0153-73-1131

日 時：2019年3月15日(金) 18:45開演(18:15開場)
 会 場：函館市芸術ホール(函館市五稜郭町37-8)
 問い合わせ：函館市芸術ホール ☎0138-55-3521

●ふたりミュージカル「O.G」

日 時：2019年3月14日(木) 19:00開演(18:30開場)
 会 場：あさひサンライズホール(土別市朝日町中央4038)
 問い合わせ：ARCHあさひ ☎0165-28-3146

日 時：2019年3月15日(金) 18:30開演(18:00開場)
 会 場：深川市文化交流ホール(深川市5条7-20)
 問い合わせ：深川市文化交流センターみらい ☎0164-23-0320

日 時：2019年3月17日(日) 18:30開演(18:00開場)
 会 場：今金町民センター(今金町字今金68)
 問い合わせ：今金町ふるさと応援大使公演事業実行委員会
 ☎0137-82-0111

※各公演の入場料は直接お問い合わせください。

募 集

アートゼミ事業

●岩井秀人「自分の物語ワークショップ」

日 時：2018年12月15日(土) 15:00～19:00
 12月16日(日) 12:30～15:30
 会 場：かてる2・7 レクリエーション研修室(札幌市中央区北2条西7丁目)
 講 師：岩井秀人(劇作家・演出家・ハイバイ代表)

アートカフェ事業

●ひびのこづえアーティストトーク「コスチューム・アーティストの仕事」

日 時：2018年12月25日(火) 18:30～20:00
 会 場：札幌文化芸術交流センターSCARTSスタジオ1・2
 (札幌市中央区北1条西1丁目札幌市民交流プラザ2階)
 講 師：ひびのこづえ(コスチューム・アーティスト)

北海道演劇人育成事業

●扇田拓也「俳優ワークショップ」

日 時：2019年3月18日(月)～3月19日(火)
 会 場：シアターZOO
 (札幌市中央区南11条西1丁目3-17 ファミール中島公園地下1階)
 講 師：扇田拓也(空観(くうがん))

●北海道戯曲賞受賞作品リーディング公演

日 時：2019年3月24日(日)
 会 場：シアターZOO
 演 出：前田透(木製ボイジャー14号)

北海道舞台塾事業

●黒田育世「ダンスワークショップ+ショーイング」

日 程：2019年2月25日(月)～3月3日(日)
 ※最終日の3/3にワークショップの成果をショーイングとして発表します。
 会 場：生活支援型文化施設コンカリーニョ
 (札幌市西区八軒1条西1丁目ザ・タワープレイス1階)
 講 師：黒田育世(BATIK)

人づくり一本木基金事業 顕彰者・研修生・奨学生募集

- 顕彰事業 2018年度「ものづくり一本木選奨」
賞金：長原賞50万円 奨励賞10万円
- 海外研修支援事業 2018年度「研修生」(通年で募集中)
助成額：100万円限度
- 奨学援助事業 2019年度「奨学生」(給付型奨学金)
給付額：普通奨学金 年額25万円 入学奨学金15万円

募集に関する問い合わせ/
 北海道文化財団 ☎011-272-0501 <https://haf.jp>